



発行：NPO法人とよなか市民環境会議 〒177 121  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境情報サロン内  
〒561-0804 豊中市普根南町1-4-3  
Tel: 06-6863-8792 Fax: 06-6863-8734

P. 1 食育フォーラム/P. 2 自然  
工作、鳴く虫/P. 3 芋掘り/P.  
4 学習会、環境とわたし/P. 5  
エコライフカレンダー/P. 6 竹  
酢液、産業部会/P. 7 環境政策  
室/P. 8 環境展お知らせ

2006年(平成18年)12月号 NO. 17 (通巻第35号)

地域から持続可能な社会づくり

# 食育フォーラム

## 生きる力を育てる食をめざす!

「豊かで美しい環境と持続可能な地域社会を未来の子どもたちに届けたい」の思いを込めた食育フォーラムを、9月2日午後すてっぷホールで開きました。

このフォーラムは、「JT青少年育成に関するNPO助成事業」の助成を受けて開催したものです。

参加者112人、盛会のうちにそれぞれの思いが伝わる集会になりました。

内藤正明先生は基調講演で次の点を強調。

「生ごみ堆肥化の運動では山形県長井市が唯一の成功例で、豊中市で皆さんが取り組み始めたとき大変な苦勞をされていると聞いていました。今日このように、生ごみ堆肥化から食育へと繋がる循環の関係を作って、小さいながらもそれを成功させている姿を見てすばらしいと感じています。

今日の話のテーマは持続可能な社会と言うことですが、世界的な大量消費の社会が先々まで続くことはほとんど不可能だろうと解りながら、二酸化炭素が増える環境破壊をどうにもできなくなりつつあります。

技術的にはいろいろな試みもありますが、皆さんがやっているような小さな規模で、スモール・イズ・ビューティフルの手作りに近い技術についての方向性が非常に大事だと思います。

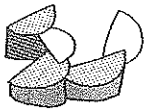
市長さんもあいさつに來られましたが、こういう新しい技術を取り入れながら豊中市のトータルデザインが考えられ、新しいライフスタイルと教育とが結びついた豊中市の政策が作られることを願っています」



その後パネルディスカッションでは、豊中市こども未来部保育課・加堂道子さん、原田学校給食センター栄養士・中村民枝さん、農業経営者協議会研究部会長・橋本忠男さん、とよっぴー協力農家・岸田興次さん、原田小PTA施設委員長・田澤有子さん、が現場からの問題を提起し、コーディネーターNPOアジェンダ21の中村義世さんにより話が進められました。

子どもたちが畑の作業に参加した体験発表もありました。そのようにして作られた野菜や米が実験的に給食の材料として提供され、体験的な生きた食育が始められていること、そんな学校給食と結びついた地産地消が、子どもたちにとってもすばらしい教育になっていることも、話し合われました。

フォーラムを通して学校給食の大事さを改めて痛感させられました。(奥野)



## 自然部会

# 庄内公民館の自然工作は大盛況

少し以前のこととなりますが、8月18日、19日、20日の3日間、庄内地域の子どもたちと「おもしろ自然工作」を行いました。これは環境学習の出前教室として、しょうないREKの要請で、アジェンダの自然部会と竹炭プロジェクトの皆さんとともに行いました。

庄内公民館の制作室を使用しましたが、3日間とも、子どもたちが詰めかけ、合計で82名の参加となりました。午前と午後に分けての2部制にしましたが、いずれもスタッフは2～3人以上を同時に相手にして、てんてこ舞いでした。

工作内容は、竹車、飾りトンボ、セミ太郎、ペンダ



ント、もっくん、とメニューも豊富にし、子どもたちには、二つは作ってもらうようにしました。子どもた

ちの中には、鋸は勿論ナイフさえ使ったことの無い子どもも多く、ケガの無いように事前にかかなりの程度まで準備した部品を用意していましたが、危なっかしい手つきでナイフを使うのにハラハラさせられました。一所懸命にがんばって作りあげたセミ太郎を振り回して、鳴き出したときには子どもたちは皆一様に大きな歓声をあげました。私たちの一番うれしい瞬間です。作ったペンダントやもっくんを手提げにくくりつけて帰る子どもたちの笑顔も思い出します。

子どもたちの中には、いろいろ作りたくて、2日連続で来た子もいました。その中の5年生の男の子2人に、特別にメニュー以外の竹トンボを作らせました。鋸で竹片を定寸に切らせ、それをナイフで薄く削り（なかなかうまくできずに、結局大幅に手助けをしましたが…）真ん中にキリで穴をあけ、芯棒を差し込んで完成。早速、室内では危ないので廊下に出てテスト飛行。5メートル以上も飛んで2人は大歓声、大興奮でした。

私たちの子どもの頃は、あたりまえに木や竹を使っていろいろな遊び道具を作っていました。今の子は初めての体験も多く、もっともっと自然の遊びをさせてやりたいと思います。子どもたちの中には夏休みの自由研究の宿題ができたと喜ぶ子もいて2学期に学校に持って行って友だちにどう話しているのかなと考えると楽しくなりました。

（佐々木忠弘）

## 服部緑地公園で鳴く虫観察会

9月17日（日）恒例の「鳴く虫観察会」がはや、秋の気配の服部緑地で行われた。

三々五々集まってきた親子づれ10数人とスタッフ、計20数名は午後6時、飯島 昌（11中）、山本光彦（14中）の両先生から鳴く虫についてお話を聞き、服部緑地での鳴く虫の観察を開始した。

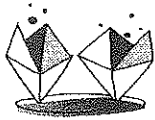
円形花壇に行く道の両側の雑木林では、樹間からアオマツムシが「フィリリ…」と甲高い声で鳴き、足元の草むらからはエンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギの鳴き声が聞えた。

民家集落館南側の草地から「ガチャガチャ」と鳴くクツワムシを参加者が全員で見、そして聞くことができた。

民家集落館横の雑木林では「リーンリーン」とスズムシが鳴き、「チンチロリン」とマツムシが、そして鳴く虫の女王といわれているカンタンの「ルルル…ルルル…」と涼しい声を聞き秋の深まりを感じた。（注：鳴くのはオス）

今回、服部緑地ではその他、ミツカドコオロギ、マダラスズ、ヒロバネカンタンなどコオロギ科14種、クツワムシ、セスジツユムシ、ナガササキリなど、キリギリス科6種が観察されたり、声を聞くことができた。

こんなすばらしい自然を一人でも多くの人に体験してもらいたいし、興味と関心を持ってもらいたいと痛感した。（水野辰彦）



## 花と緑のネットワークとよなか

# さつまいの収穫で笑顔いっぱい

秋晴れの気持ちよい陽気の中、10月21日(土)に「JTとよびキッズ倶楽部」のさつまいの収穫を行いました。この事業はJT(日本たばこ産業)が行っている「JT青少年育成に関するNPO助成事業」の助成をうけて実施したもので、都会に住む子どもたちに野菜作りなどを体験させながら作物への感謝や学校給食への関心を育てていこうとする趣旨のものです。

5月に募集した親子が、今回最終回のさつまいの収穫までに3回の体験を経てくることができました。初回の5月20日はさつまいの植え付けと大豆の豆まき。2回目の6月10日は畑の手入れ、草抜きをする地道な作業です。3回目の7月29日は枝豆の収穫。

そして、今回のさつまいの収穫。37人の小中学生とその父母が集まってくれました。スタッフは土の中で芋が無事育っているのかどうか心配していましたが、普段の手入れを一生懸命したかいもあり、次々と大き



な芋が掘り出され、ホッと一安心。参加者の間からはあちこちで歓声が上がりました。ちょうど農園ではチンゲン菜も育ていたので、その摘み取りもしてもらい、紙芝居鑑賞後、いよいよ試食タイム。その日掘り起こした芋をふかし芋にし、芋掘りで一汗かいた参加者に食べてもらいました。たくさん用意しましたが、あっという間に売り切れ!

参加者からは「植え方は簡単なようで、実はとても大事な作業なのだと思った」や、「枝豆がなっているところを初めて見た」「さつまいは意外と深く掘るのが大変でした」などの感想が寄せられました。

雨の日も、真夏の暑い日もありましたが、収穫だけでなく、植え付けから始まった体験の中で「こうやって作物はできるんだな」ということを知ってもらえたのではないのでしょうか。みなさん、ありがとうございました。(村瀬令子)

## 秋空の下でクリーンランドフェスティバル

10月15日、晴れ渡った秋空の下で、クリーンランドフェスティバルが同施設の駐車場の一部で開催されました。フェスティバルは豊中市政70周年記念行事の一環でもあり、NPO法人アジェンダ21も労働組合やその他の市民団体などとともに参加し、盛大に行われました。

会場につくと、まず目を引いたのが市民のフリーマーケット。30店ほどが軒をつらねています。

アジェンダ21は、竹炭・竹酢液の頒布や、とよびの頒布、また廃木材を使った工作教室や、風力発電でダイオードの小さな電気をつける実験装置も持ち込みました。

自転車発電でミニ電車をはしらせる実験は相変わらず人気があり、このフェスティバルでは浅利市長にも自転車こぎに挑戦してもらいました。

子ども向けに自主制作した紙芝居も人気があり、子どもたちをひきつけただけでなく、大人も飽きさせないみごとな話芸も聴く人を感心させました。

市民環境会議のメンバーであるさわ病院もフェスティ



バルに参加し、おにぎりやカレーライスのお店をだしていました。さわ病院の院長先生がおにぎりを握っていて、とても楽しい雰囲気がいっぱいでした。

午前と午後の2回、クリーンスポーツランドのインストラクターさんによる体操やダンスの指導もあり、着ぐるみを着て子どもたちと握手をしたり、手をとって踊ったりの楽しい一幕もありました。(奥野)



企画屋本舗

## 「環境にやさしいって どんなこと？」

講師は中野加都子さん、11月7日(火)大池小学校で、参加者32人。

さて学習会が始まり、中野さんの話が進みます。地球の温暖化が確実に進んでいること。(こんな寒いのに温暖化ですか?)長〜い目で見ると北半球の二酸化炭素が増えて、日本の気温が百年で1度以上、80年代以降高温となる年が多いです。

中野さんは、環境にやさしい暮らしとして3つの提案をされました。

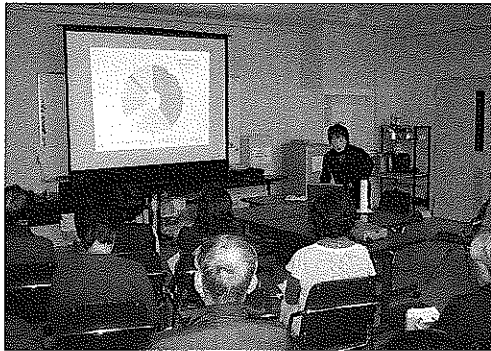
①**食べ残しをしない** 日本で消費されている食料の多くは外国から輸入しています。これらは多量の燃料を使い、環境負荷を背負いつつ日本にきています。この食料を消費者、コンビニエンスストアが賞味期限という言葉により捨て

ています。②**車になるべく乗らない** 常時車を利用する世帯は、利用しない世帯と比較すると、2倍の二酸化炭素を排出しています。③**使っていない電気は切る** 日本の携帯電話をすべて、充電していない時にアダプターをコンセントから外した場合、原油をドラム缶で21万本節約したことになります。

さてそこで、ドイツが出てきます。環境先進国との思いが強いのですが、太陽光発電は日本のほうが普及しており、国民一人あたりの二酸化炭素排出量は、日本のほうが少ないのです。しかし優れた点も多くあります。自動販売機、コンビニエンスストア、弁当屋は

ありませんし、その他の店も日曜日は完全休業です。日本人から見ると不便な生活ですが、ドイツ人はこれが文化であるとして、変えようとはしません。

ごみの発生を抑制しないで、ごみの分別とリサイクルに熱心な日本。ごみの発生を抑制して、リサイクルにも熱心なドイツ。(やっぱりドイツやな!)そのドイツの真似をしないで、日本方式の『もったいない』を復活させることが循環型社会につながると結ばれました。



続いて出席者主役のワーキングに移り、各自が「我が家のもったいない」「食べ残しをしない減量作戦」を紙に書き、前に張り出します。「会社人間の夫は、家では、エアコン・テレビをつ

ければなしでもったいない」には男性参加者は苦笑い、女性参加者には賛同を得ていました。

「ドイツは、商品の部品を15年も保存している。日本は7年で修理もできない」「もったいないの言葉だけが一人歩きしている。行動がともなわない」「食べ物を捨てる日本人と、食べ物が無く餓死する外国の子どもが、同じ地球に住んでいる。このことを日本の子どもたちに、説教ではなく、話す機会をつくらなければと考えました」参加者の意見を聞きながら、自分にできることは、何があるのか考えていました。

(池田一夫)

### 環境とわたし

#### ⑪ 内 友紀さん

インターンシップ研修生



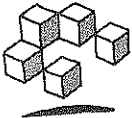
最近、私は様々な事象に対して「なぜ」と疑問を持つことの重要性を感じる。その理由は「なぜ」を考える、見つめることにより問題、課題を解決に向かわせるヒント、あるいはその原点の光を見出せるのではないかと考えているからである。

アジェンダへの提案。

私は、インターンシップ研修の日々を通じて、アジェンダの皆さんの一生懸命な取り組みを拝見させていただいている。その中で思ったことがある。「なぜ」皆さんは一生懸命に取り組むのだろうかということ。もちろん、皆さんの様々な思い、考えがあってのことだと思うが、それだけなのだろうか。今までの歩みの中で蓄積された無意識の思いもある

と私は思っている。そこで、皆さんの「なぜ」取り組むのかを、無意識の部分も含めて様々な視点から考えたり、話し合ったり、思いをめぐらせてみたりすることにより、より多くの方がアジェンダや環境に関心を抱くヒント、または人間の環境に対する姿勢のあり様の原点も見つけることができるのではないだろうか。このことを私は提案したいと思う。私も考えたいと思う。

これを読んでいただいた皆さんも「なぜ」について考えてみてください。案外おもしろいですよ。



生活部会

# エコライフカレンダーモニター倶楽部から

## 暴れ梅雨だった! 異常気象の夏でした

10月に発行された「エコライフカレンダーモニター倶楽部」8号では、今夏の「暴れ梅雨」だったことなど、異常気象についての感想が多くあり、そのことを通信の話題にしました。

「豪雨や異常な暑さが世界各地で見られます。これも人間が環境に悪さをしたからか? そのことに気づかない人が多いのはなぜ?」と言う風にモニターから感想が出されていたからです。生活部会の編集部ではIPCC(気候変動に関する政府間パネル)が発表していた次のような将来予測をモニターさんに提供し、地球温暖化についての最近の情報を共有しました。

### 極端な異常気象が大規模化・頻発化し現れる

極端な現象は次のように予想されていました。

- ①最高気温の上昇、暑い日や熱波の増加——ほぼ全陸域 90~99%の確率で現れる。
- ②最低気温の上昇、寒い日、寒波の減少——ほぼ全陸域 90~99%の確率で現れる。
- ③集中豪雨の増大——多くの地域で起こる。90~99%の確率で現れる。
- ④夏の乾燥と関連する干ばつリスクの増加——大陸内陸部 66~90%の確率で現れる。



⑤熱帯低気圧の最大風速、平均・最大降雨強度の増大  
さんご礁、マングローブなどの沿岸生態系の被害増加  
66~90%の確率で現れる。

⑥夏季のアジアモンスーンの降雨変動性の増大、温帯・熱帯アジアの洪水、干ばつ強度と被害の増加。  
66~90%の確率で現れる。 (奥野)

出典:「STOP THE 温暖化 2005」環境省

### 「もったいない」の行動はエコライフカレンダーから

「2007年エコライフカレンダー」ができあがりました。環境展でお披露目する予定です。環境家計簿としてより使いやすいように、自分の家の二酸化炭素排出量が書き込めるよう、具体例を示した資料も添えられています。

またよく言われている、電気製品などの増加が近年の二酸化炭素排出量の増大ではないかというのを確かめるため、昨年1年間に新しい家電製品の購入や買い替えがあったかの小アンケートも添えました。データの分析がさらに深まりつつあります。



## 「省エネ生活」ゆたか幼稚園での学習会

9月12日午前10時から、ゆたか幼稚園の保護者30人の集まりに「生活でのエネルギーの節約と最近の異常気象」のテーマで出前学習会に行きました。

講師を務めたのは新開悦子さん、柴田起夫さん、奥野享の3人。地球温暖化による異常気象の話を導入に、生活の中で節約できることでどんなものがあるでしょうかと問いかけ、居間でできること、台所でできること、洗面台や風呂で、買い物と外出…な

どを、分かりやすく説明しました。

また、私たちが取り組んでいる環境家計簿についても簡単に説明し、モニターになってくださいと呼びかけました。

話をするだけでなく、具体的に待機電力を測ることもできるよう、測定器や炊飯器・保温ポットなどを持って行き、実物を前に並べて、どれだけムダな電気が使われているか、どれだけ家計の損失になっているか、も見てもらいました。 (奥野)

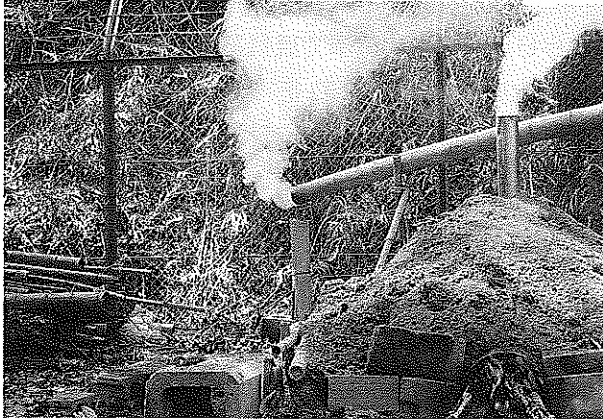


## 竹炭プロジェクト

夏場を除き毎月千里中央公園で竹炭焼きを行っております。しかし竹の間伐が目的ですので、炭焼きに適した竹だけを選んで切ることはできません。

若い竹や老竹は炭焼きには向いていませんので、これらはいずれも野積みして自然に帰すこととなります。

ところで、10月18日、19日には炭焼きを行いました。竹酢液も採取しました。採取は写真でご覧



## 竹酢液は有用な天然資材

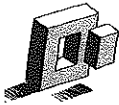
のとおり煙突に竹筒をかぶせて行い、煙がその中を通過中に冷却されて水滴となります。これが竹酢液の原液です。鼻につんとくる燻臭がします。容器保存して半年ほど経つと表層に浮く油状のものと底に沈殿するタール状のものが分離します。これに小粒の竹炭を混ぜて不純物を吸着させ濾過すると、品質の良い竹酢液のできあがりです。

このように竹酢液は竹炭焼き工程で採取される天然資材で人には無害です。酸性の強い液体で酢酸を主成分に200種以上の有効成分が含まれていると言われております。

少し使用例を述べて見ます。

50倍に薄めて土壌に混ぜると作物の発育促進に、堆肥づくりの発酵を促したり、燻臭はネズミやムカデ、ナメクジの忌避材に、ダニ等害虫駆除や消臭用として、まだまだ沢山あるのですが、開発途上でもあり、今後大いに期待されます。

(三宅史郎)



## 産業部会

## 事業所で取り組む屋上緑化

11月2日(木)、「事業所で取り組む緑化」というテーマで学習会を行いました。まず、豊中造園建設業組合会員で長年環境問題に取り組まれている稲葉憲造さんに屋上緑化の施工方法や植物などについて詳しくお話をいただきました。屋上緑化した芝面と非緑化のタイル面では15~20℃もの差が見られるそうで、かなりの断熱効果があるというデータの紹介がありました。屋上緑化は省エネ効果とヒートアイランド現象の緩和にも役立つことが立証されているようです。また、みどりによるCO2の吸収効果も期待できるということで最近注目されるようになりました。施工のポイントとしては防水や防根などきっちりとした対策をしておくことが大事で、専門家に相談することが必要だと話されました。

次に豊中市公園みどり推進課の高見健一さんに豊中市のみどりの現状や緑化推進の取り組みなどをお話していただきました。

2005年度の豊中の緑被率は2000年度に比べ1.6%減少しているそうです。1%というのは、樹木を敷き詰めた状態の豊島公園6個分に相当するのだと

いうことを聞き、あらためて緑が減少していることを実感しました。豊中のみどりを少しでも増やすために、市民の方たちの力を借りるとともに、事業者の方たちとも一緒に取り組みたいと話されました。

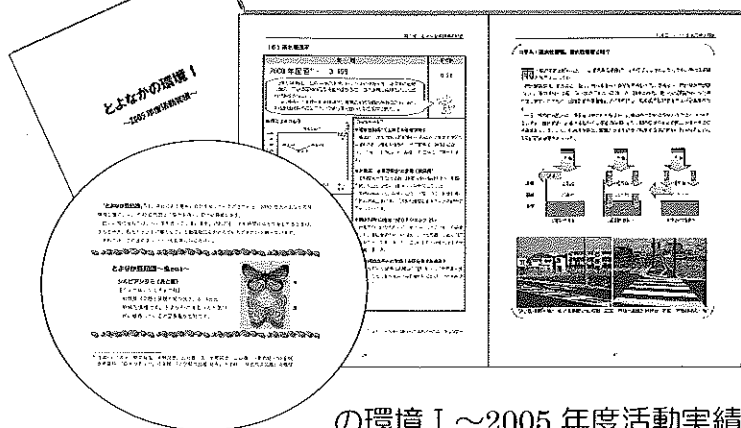
その後、関西雨水市民の会の水野育成さんに雨水利用についてお話をいただきました。水野さんは「豊中に降る雨の殆んどが利用できていないのは大変もったいない」と熱く語られました。

また高見さんより提供いただいた資料で、最近話題になっている「さつまいもの水気耕栽培による屋上緑化」について学習し、参加者からは「これなら比較的簡単に取り組みそう」という声が上がっていました。

豊中のように都市化した町では、残された自然を守ると同時に新たなみどりを増やす努力が必要です。学校や公園などにピオトープを作って自然の植物や生き物を取り戻そうというのもその取り組みの一つです。屋上や壁面そしてあまり活用されていない敷地などを利用して少しでもみどりを増やし、地球温暖化防止の一役を担うとともに癒しの空間を創造してみたいかがでしょうか。

(茨木かづ子)

# 環境フォーラム2006を開催！



まだ暑さの残る9月9日、エトレ豊中のすてっぷホールにおいて、とよなか環境フォーラム2006を開催しました。これは、前年度の環境に関する報告と市民の交流、さらに次年度に向けて意見をいただく場として毎年開いているものです。

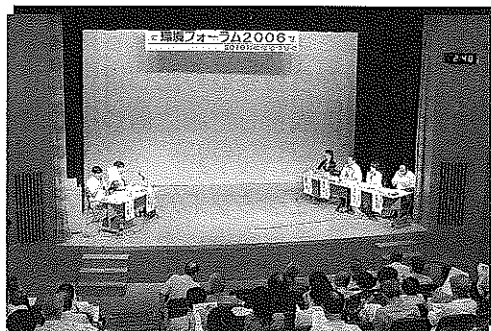
前半は、改訂した環境報告書「とよなかの環境Ⅰ～2005年度活動実績～」のお披露目となりました。「難しくないように、楽しく読めるように、豊中の環境の現状が一望できるように・・・」と工夫を凝らして、ようやく公表にこぎつけました。まだまだ成長過程の報告書です。これからも環境展や、「報告書を読む会」など、さまざまな機会に多くの方からご意見をいただき、より良いものにしていきたいと思っております。

そして、フォーラムの後半は、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21事務局長の井上和彦さんの進行で、コメンテーターに豊中市環境審議会委員の中野加都子さんをお迎えし、パネリスト4人とともに議論が展開されました。

まず、中野さんから、環境先進国ドイツと日本の比較をもとに、環境活動は風土や文化の違いを考慮し、その国や地域にあわせて取り組むべきというお話が出ました。中でも、自分の住むまちを知ることが、豊中という地域への誇りや愛着につながり、行動に結びついていくという話には、活動の広がりへのヒントがたくさんあったように感じました。

パネリストの事例発表では、低床・低公害車の導入やシルバー向けの定期「グランドパス65」など、人とまちにやさしいバス事業を西山哲さんが紹介。「そんないい制度ならもっと広報してほしい」という参加者からの要望に「毎度ありがとうございます」と返す楽しい場面もありました。

さらに、榎井縁さんが、活動の広がりや課題の解決に向けて、分野をまたがって取り組んでいるESDとよなか\*の活動を紹介します。これまで関係者が中心となって環境問題に取り組んできた長い歩みの中で、新たな可能性を感じる一歩となりました。子育てや福祉など暮らしの中の身近な問題とつなげて環境問題を考えることや、市民・事業者・行政が分野をこえて協働で取り組むことの大切さが印象づけられたフォーラムとなりました。



左側：井上和彦さん、中野加都子さん、  
右側：パネリストのみなさん  
榎井縁さん((財)とよなか国際交流協会)  
西山哲さん(鞍阪急バス)  
茨木かづ子さん(NPOアジェンダ21)  
大源文造さん(環境政策室)

\* **ESD とよなか**：持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）に取り組むゆるやかなネットワーク。NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21や環境政策室をはじめ、各分野の団体が参画している。

# 環境展2006の見どころ

12月1日(金) 2日(土) 10:00~16:00 豊中市民会館

## 未来の乗り物がいっぱい

- 天然ガスPR車によるミニイベント ●大阪産業大学の電気自動車の展示と試走(2日だけ)
- 燃料電池車に乗せてもらい未来気分を経験(2日だけ) ●ペロタクシーの運行(1日だけ)

## 自然との触れあいを満喫

- 落ち葉のじゅうたんに寝転がったり ●間伐した木材で自由な遊びを体験 ●自然工作
- ビオトープってどんなん?

## わいわい広場にちょっと寄り道

- オーガニック喫茶・焼きそば・エスニック料理で一息入れて…(2日だけ) ●とよっぴーで育てた野菜
- 豊中の竹林整備を兼ねて作った竹炭・竹酢液など ●モットちゃん・キットちゃんのショー(1日だけ)

## 編集室から

▼たまたま聞いた話だが、レジ袋の有料制が韓国だけでなく台湾でも2年ほど前から実施されていたのを知。台湾円で2元だから7円ぐらい。この話を聞いて日本はなぜこんなちょっとしたことをやるのにも手間がかかり現実化が遅いのか考えさせられる。(Z)

▼千里中央公園でクヌギやアベマキの実と殻斗かくとを拾って、絹の小さなスカーフを染めた。輪ゴムと割りばしで布をしぼり、どんな色や模様になるかワクワクしながら染まるのを待った。やさしいつるばみ色(クヌギで染めた色)に仕上がりみんな大喜び。昔は、身近にあるもので染めものをしたんだね。(H)

▼来春東京暮らしを始める娘と妙見山を散策した。樹齢〇百年と思しきブナの林で娘は写真を何枚も写したあと、リュックから袋を取り出し足元に散らばったごみを拾い集めた。成長した娘に何やら教えられた気がして頼もしく感じた。(Y)

▼わたくしはアジェンダ21のホームページの作成に携わる一人です。ニュースレターとホームページは密接に関連していることからこの度、ニュースレターの編集に加わらせていただきました。これを機に、ニュー

スレターの内容をホームページに載せていきたいと思っています。(H)

▼「秋の風 枯葉舞い散る夕暮れに 風流きどって窓辺たたずむ」なんてアホな一首をひねった休日が過ぎ・・・

翌朝、ベランダは砂だらけの葉っぱだらけ。出勤前からひと掃除。風流って意外に大変なんだ^^;(K)

▼8ヶ月になるわが子がつたい歩きをするようになりました。最近読んだ新潮文庫の「自転車少年記」という本は、主人公の自転車との出会いから、その子どもが自転車に乗るまでのお話ですが、うちの子も早く乗れるようにならないかなあとワクワクしました。(J)

▼今号も何とか発行することができました。活動している皆さまの様子や、さまざまな思いをお伝えするお手伝いできたでしょうか? 楽しいニュースレターをお届けできるよう、いつもアンテナを張り巡らせておかなければ! と思っています。(P)

ず〜っと古臭いレイアウトを続けてきましたが、少しでも楽しく視覚的な紙面にしたいと、見出しのマイナーチェンジを試みました。たいして変わり映えしない? うーむ。どうぞご意見をください。

### ご寄付へのお礼

アジェンダの活動に対して温かいご寄付が寄せられました。

- ・匿名 18,000円
- ・匿名 18,236円

ありがとうございました。

《広報チーム》

Z奥野、H岡、Y小村、H猪尾、K荒井、J井上、P大村

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)